

協働事例報告

協働のまちづくり推進委員
瑞穂町バスケットボール連盟
小松揚明

～地域特性を活かしたまちづくり～

瑞穂・横田友好
バスケットボールフェスティバル

協働のまちづくり推進委員
瑞穂町バスケットボール連盟
小松揚明

本日の流れ

1. ～地域特性を活かしたまちづくり～

瑞穂・横田友好バスケットボールフェスティバル

(小松 揚明)

2. 「みんなで守ろう瑞穂町の平地林」(中沢 清)

3. 「狭山池 上流部をひまわり畑に！」(井上 祐輔)

本日のお伝えしたいこと

協働とは
何か？

なぜ、協働が
必要なのか？



具体的に
協働とは
どんなもの
なのか？

自己紹介

小松 揚明(こまつ たかひろ)

1981年(昭和56年)
8月8日生まれ

37歳

瑞穂二中出身

バスケットボール
コーチ

瑞穂町バスケット
ボール連盟を設立

笑夢スポと連携し、
町内でバスケット
ボール教室を運営

主な経歴

1. 瑞穂二中バスケットボール部出身
2. 市民球団「横浜ギガキャッツ(元いすゞ自動車)」に練習生として入団
3. Bリーグの前身であるbjリーグのアカデミー事業部のコーチに就任
4. 横浜ビーコルセアーズ、東京サンレーヴスなどのプロチームにて活動
5. 日本代表テクスカルスタッフとして活動

瑞穂町バスケットボール連盟の ミッション

**「バスケットボールで
みずほを元気に！」**

**私たちバスケットボール連盟は、瑞穂町全体に、
笑顔と夢と元気を創造していきます！**

さて、ここからが
本題です

本日の流れ

1. ～地域特性を活かしたまちづくり～

瑞穂・横田友好バスケットボールフェスティバル

(小松 揚明)

2. 「みんなで守ろう瑞穂町の平地林」(中沢 清)

3. 「狭山池 上流部をひまわり畑に！」(井上 祐輔)

本日のお伝えしたいこと

協働とは何か？

なぜ、協働が必要なのか？



具体的に協働とはどんなものなのか？

協働とは何か？



「きょうどう」の意味と使い分け

共同



共同浴場

ともに同じであること

協同



協同組合

同様に協力すること

協働



協働学習

協力して働くこと

まちづくりにおける「協働」の意味

協力して共に働くことにより、
より良いまちづくりを行うこと



瑞穂町での協働の立ち位置

1. 平成23年3月 **「第4次瑞穂町長期総合計画書」**が発行される。
(平成23～32年度までの10年間)
2. 平成26年10月 **「瑞穂町協働宣言」**が策定される



瑞穂町協働宣言

瑞穂町協働宣言

～ 手をとって みんなで楽しむ まちづくり ～



平成26年10月 8日

瑞穂町は、狭山丘陵や狭山地など身近にある自然、青柳街道や日光街道など歴史を彩った数多くの街道が残っています。

自然と歴史の足跡が残るこの町は、古くから多くの人が行き交うことでさまざまな文化や産業、そして人々のつながりが生み出されています。

先人が残してきた自然や人々が育んできたさまざまなつながりを大切に守り、未来に向け瑞穂町を育てていくためにも、私たちはみんなで考え、汗を流し、それぞれができることを分かち合い、ひとつになることで、協働のまちづくりを実現します。

1 つながろう 人と人

みんなが嫌やきずな、喜びを感じ、共に生きていくために、子どもからお年寄りまでの誰もが、優しさにあふれ、心が通い合う温かい人間関係を築きます。

2 参加しよう 地域づくり

地域の主役である私たちが、誇りを持って、これからも住み続けたいと思えるような地域をつくり上げていくために、地域の行事や活動に参加する意識を持ち、積極的に行動します。

3 楽しもう 生きがいとやりがい

お互いに協力することで、私たちが思い描くまちづくりを実現していくために、遊び心と楽しさを持ち、私たちそれぞれができることを活かすことで、生きがいとやりがいを分かち合います。

4 育てよう 新たな出会い

さまざまな人たちが集まる出会いの場をきっかけに、目的を共有し、人と人とのつながりや支え合いを通して、新たなコミュニティづくりとコミュニティを支えるリーダーシップを育みます。

5 広げよう 人と心の和

私たちが積み重ねてきた経験や知識を互いに分け合っていくとともに、それらを積極的に発信し、それぞれが持つ魅力を伝えていくことで、人と心の和を広げます。

瑞穂町長

石塚 幸右衛門

瑞穂町議会議長

石川 修

瑞穂町の協働を考える会議座長

古宮 郁夫

より良いまちづくりとは？



瑞穂町の現状

瑞穂町が抱える社会的問題

人口減少

地域
コミュニティ
希薄化

商業衰退

少子高齢化社会

2040年消滅可能性都市 (国境県についてはデータがそろわない)



現在の瑞穂町は様々な社会的問題を抱えており、
その解決は急務となっています。

消滅自治体へ！？

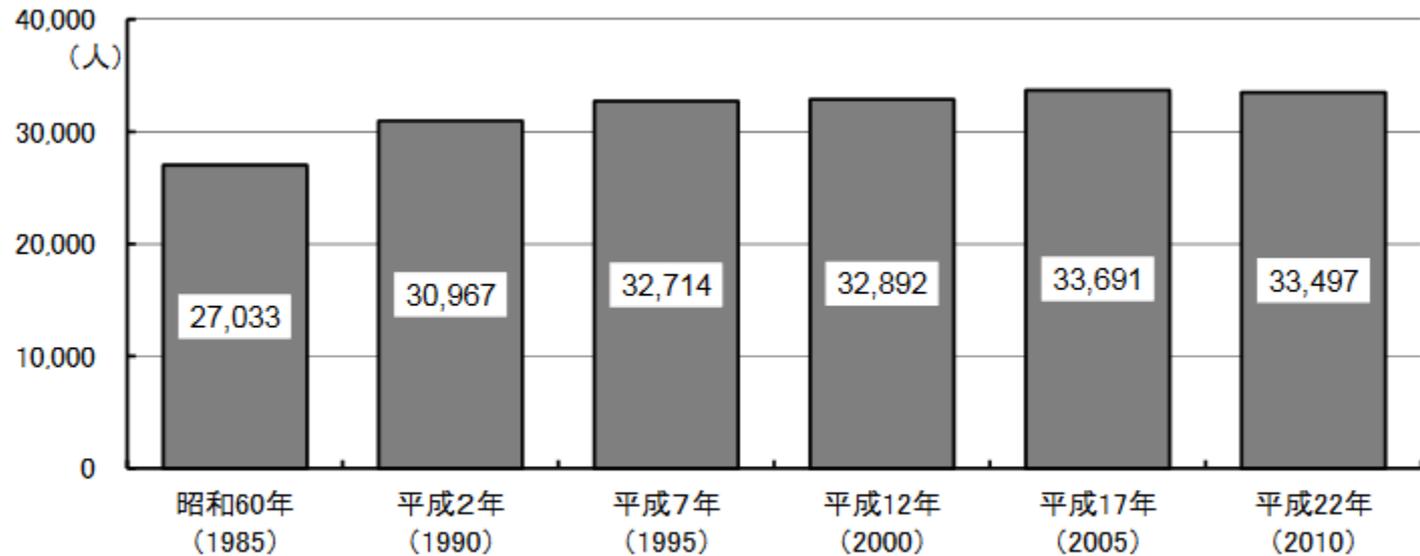
瑞穂町住民基本台帳 平成31年1月1日現在

人口構成

当月

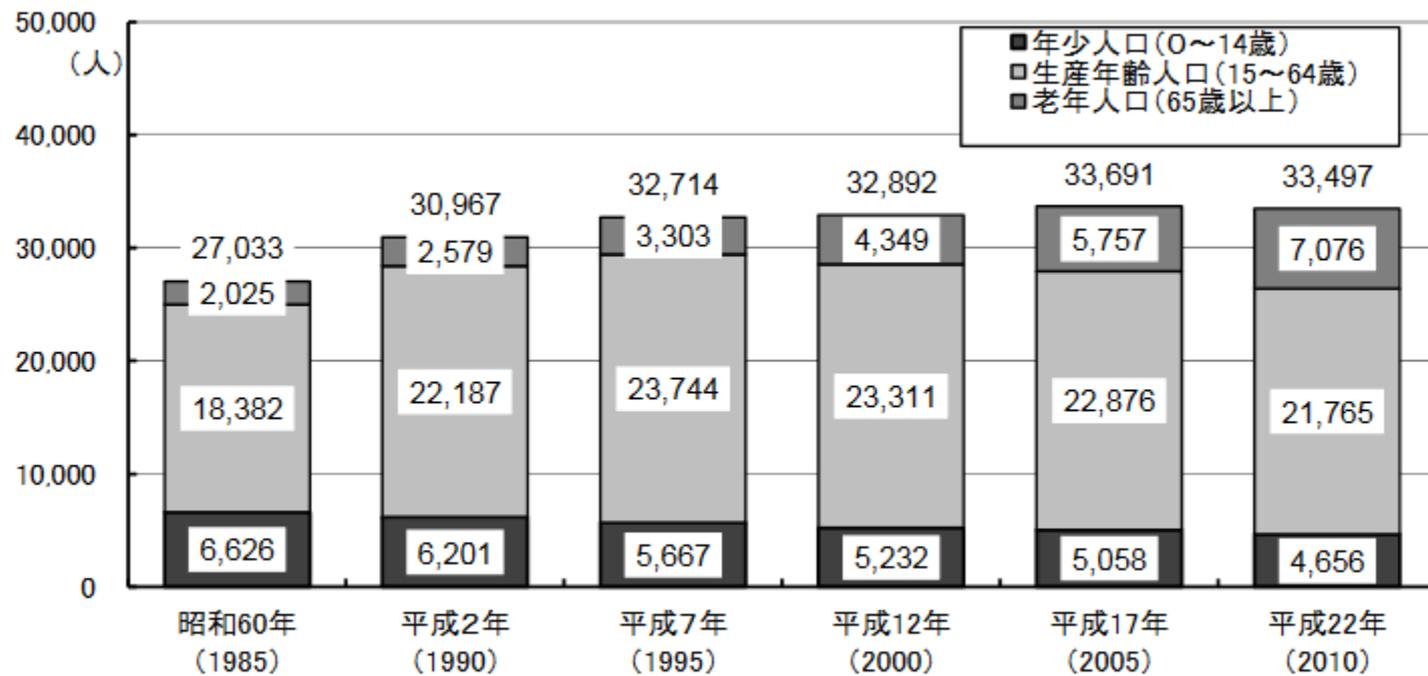
	男性	女性	合計
日本人	16,511	15,920	32,431
外国人	411	371	782
合計	16,922	16,291	33,213

瑞穂町総人口の推移



資料：国勢調査

瑞穂町年齢三区分別人口の推移



資料：国勢調査

東京都の高齢化率の推移

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
高齢化率(%)	22.7	23.2	23.3	24.3	26.4	29.3	31.3	32.9	33.5	33.7
(参考)前回推計	23.0	24.0	24.6	26.2	28.9	32.5	35.5	38.1	39.4	39.2

4人に1人が高齢者となるのは2025年

まとめ

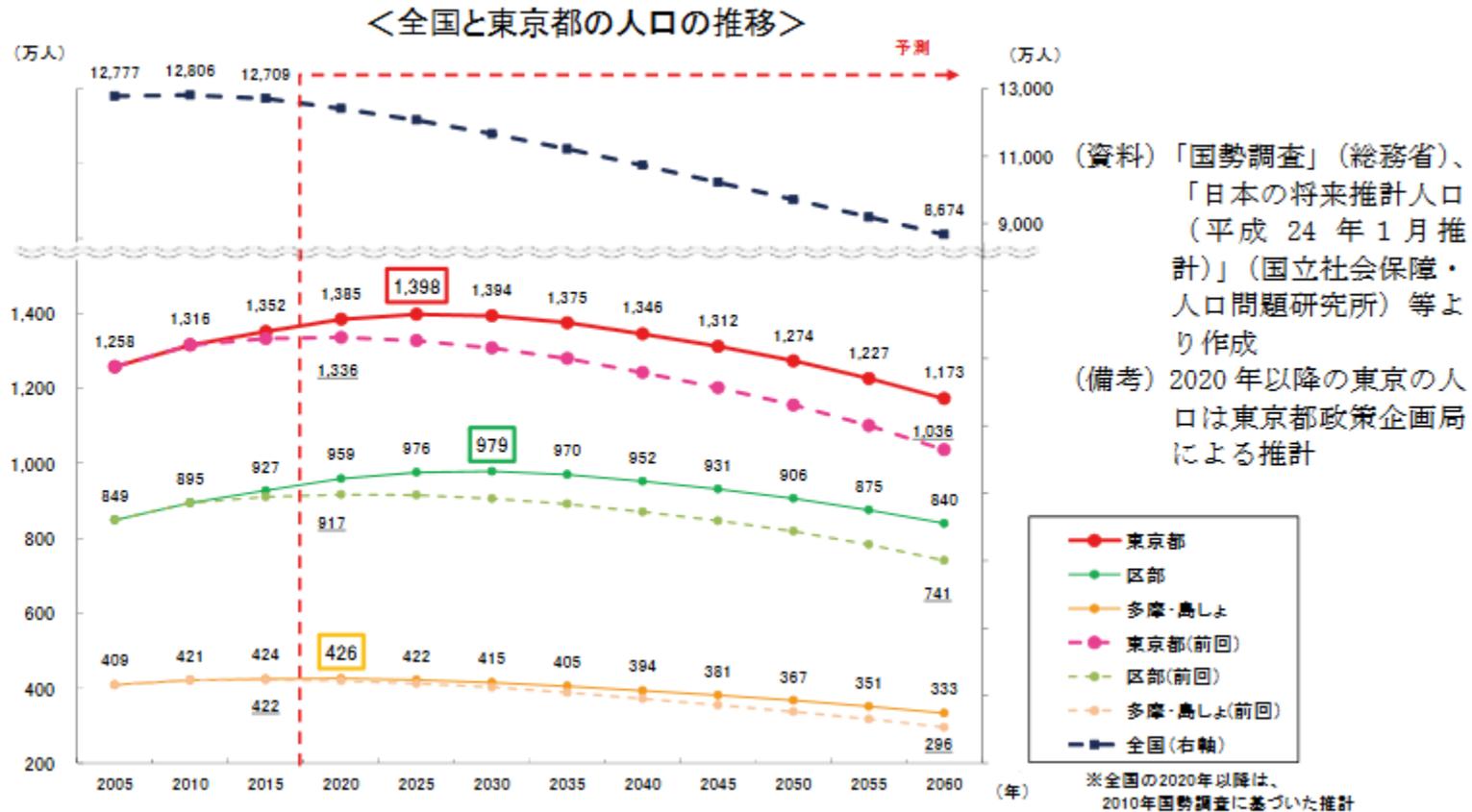
瑞穂町は年少人口(出生率)が減少傾向にあり、
少子高齢化現象にある。

つまりは、現状の人口を維持するためには、
転出者を減らし、転入者を増やしていくしかない

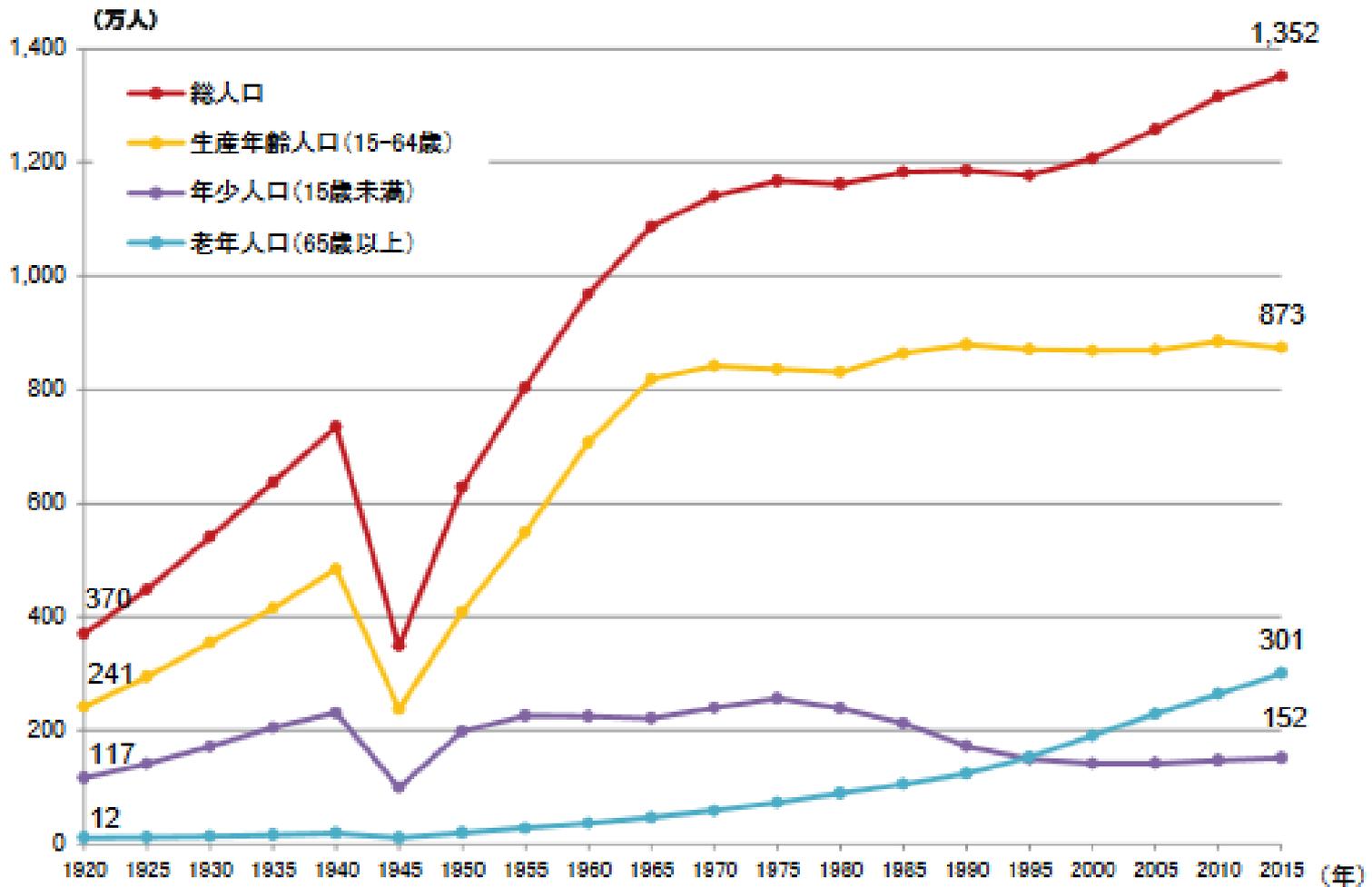
つまりは他の市区町村より
魅力的な町である必要がある

東京都の現状

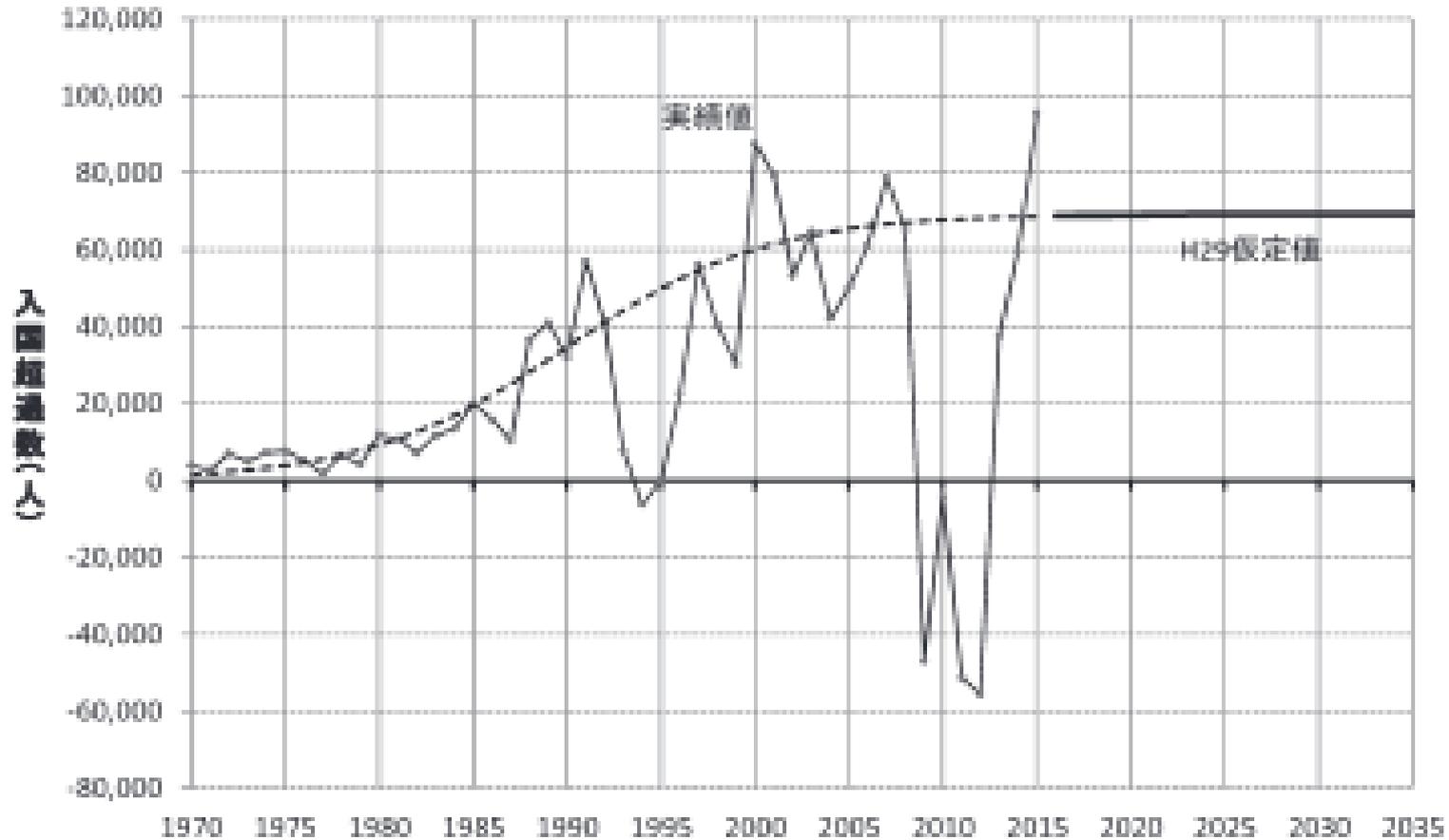
全国と東京都の人口の推移



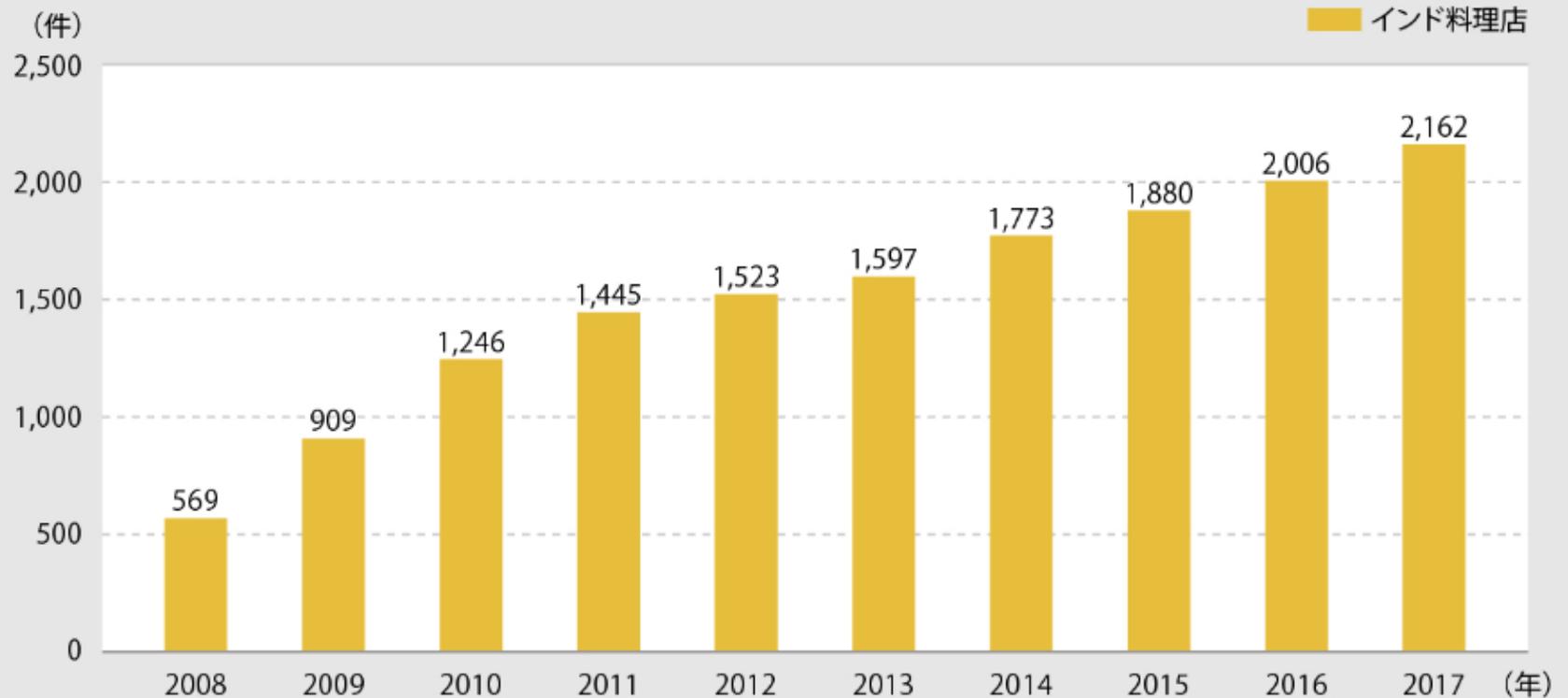
東京都の年齢3区分別人口の推移



外国人入国超過数の推移

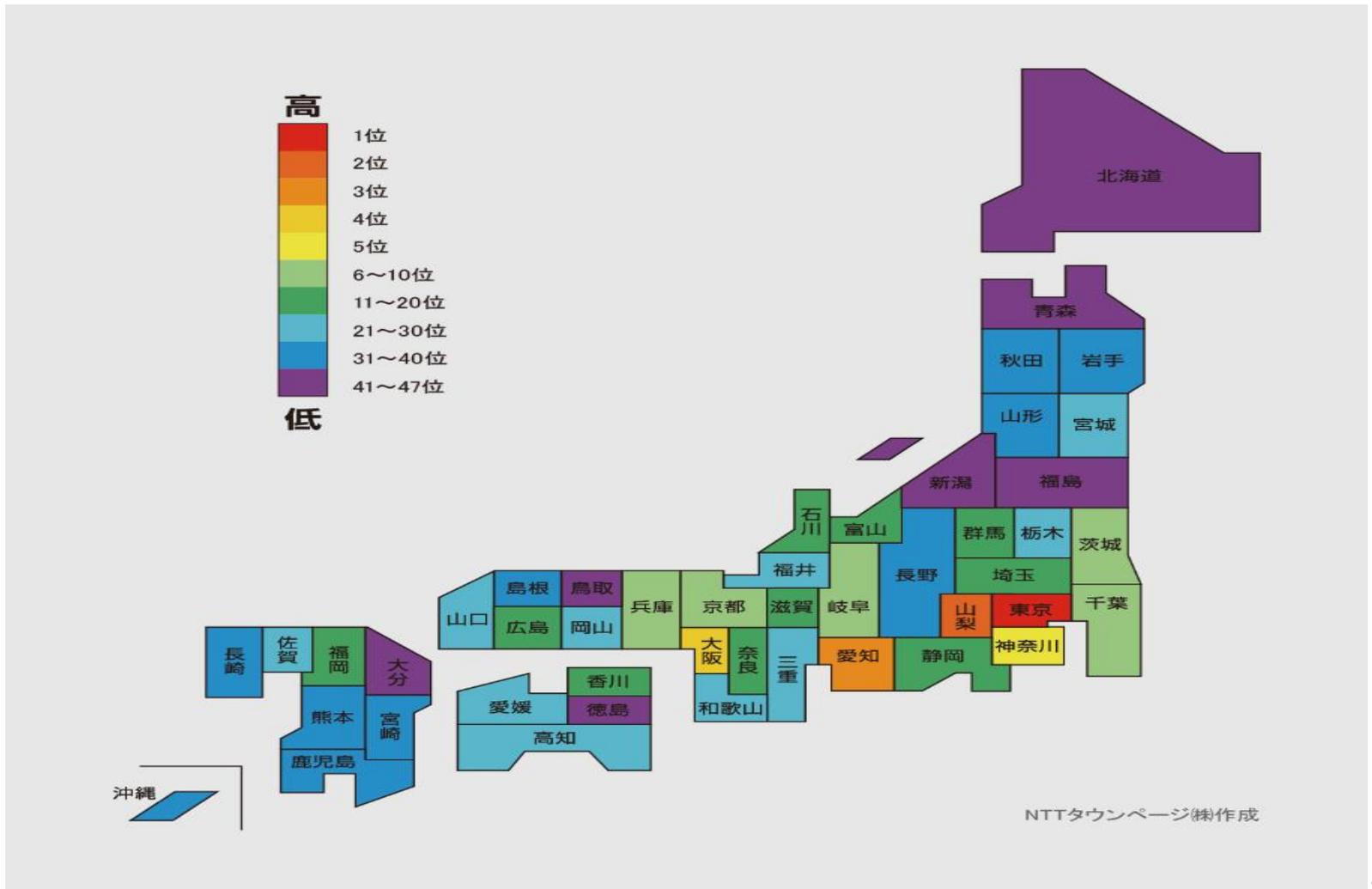


業種分類「インド料理」の登録件数推移 (2008年～2017年)



【出典】「タウンページデータベース」(NTT東日本、NTT西日本)NTTタウンページ(株)作成

業種分類「インド料理」の登録件数による偏差値の都道府県ランキング(2017年)



まとめ

東京都の人口増加の背景には、
外国人入国者数の増加がある

つまりは、魅力的な町とは、日本人だけではなく、
外国人にとっても魅力的な町にならなくてはならない

瑞穂町でもグローバル社会の構築、ダイバーシティ
が求められてきている

バスケットボール連盟なりの分析

瑞穂町でも国籍や人種に関係なく、誰もがグローバルに楽しめる魅力が必要である！

瑞穂町の地域特性

瑞穂町の立地



横田基地の存在



横田基地とアメリカンカルチャー

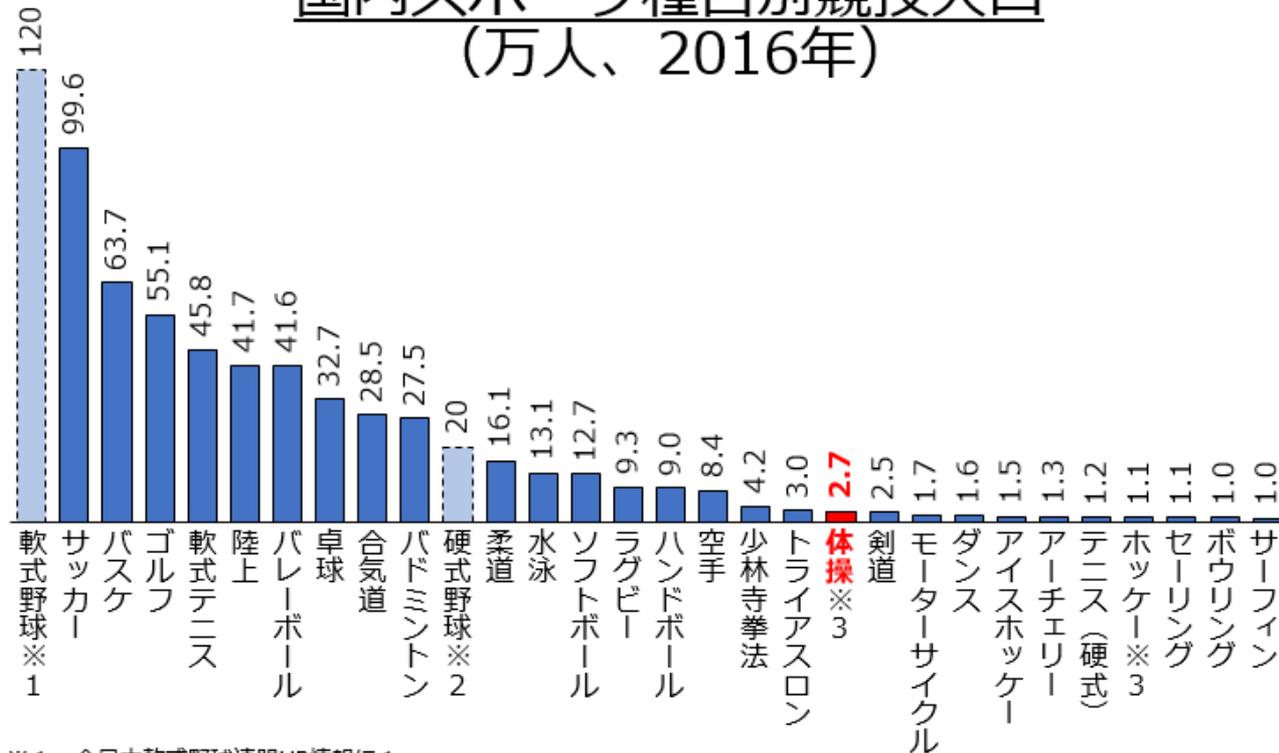
- 16号沿いに代表されるように、横田基地周辺ではアメリカンカルチャーが溢れている
- アメリカ人はスポーツをこよなく愛している
- アメリカ人はバスケットボールをこよなく愛している

バスケットボール

- 世界で第1位(～3位)の競技人口をもつ世界的なスポーツである
- アメリカにはNBAというリーグがあり、アメリカの国民的スポーツとなっている
- 日本でも3位の競技スポーツ人口を持つ



国内スポーツ種目別競技人口 (万人、2016年)



※1：全日本軟式野球連盟HP情報に1

※2：高校野球連盟、全日本大学野球連盟、日本野球機構の選手数合計+社会人野球チーム数（日本野球連盟）から選手数を推計

※3：「2014年度 中央競技団体现況調査」データ

資料：「2016年度 中央競技団体现況調査」（笹川スポーツ財団）ほか各種資料より作成

小松 小学生の頃の思い出

- 小学生の頃、横田基地に入り、基地内バスケットボールチームと試合をした。



まとめ

自分のできることを踏まえ、
バスケットで何かまちづくりに貢献できるものを
やってみたい！



イベント開催の きっかけについて

イベントのきっかけ

- 2018年の協働フォーラムにて横田交流協会の山崎さんとロバートソン大佐と出会う
- イベントの口約束をする
- 数日後の電話で開催することが決定した。

(準備期間約1カ月)

困った



でも、やりたい！



さまざま準備を進める中で、 個人ではどうにもならない部分が出て きてしまった

用具は
どうしよう…

会場はどう
確保しよう…



協働へ

- 地域課に相談に行きました！



協働へ

協働に対する2つの目線

- 住民サイドの協働
(瑞穂町バスケットボール連盟)
- 行政サイドの協働(瑞穂町役場地域課)

住民サイドの アプローチ

瑞穂町バスケットボール連盟は
どんなことをしたの？

イベントの準備

- 「人」の準備
 - 参加者の確保・調整 ○
 - スタッフの確保 ○
- 「金」の準備
 - 最低限の費用の確保 ○
- 「モノ」の準備
 - 会場の確保 ○
 - 用具の準備 △
 - 会場設営の準備 ×
- 「その他」
 - 告知 ×



地域課へ

小松目線
(町民目線)

地域課に相談に 行くと・・・

- やさしく出迎え、親身に話を聞いてくれた。
- そして、イベント実行の為に、様々な手立てをとともに考えてくれた。
- そしてできる限りの支援をしてくれた。
- 行政間の調整や窓口を一本化してくれて、問題解決に向けてとともに活動してくれた

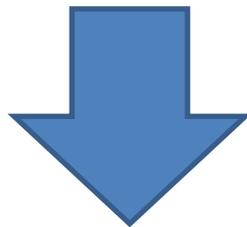
住民から協働提案 を受けた行政サイド

町は提案を受けてどうしたの？
どんなことを考えた？

そもそも、協働って何？

「協働」は目的ではなく、手段です。

協働をするために何かをするのではなく、何かをするために協働をします。町民や団体は、事業に取り組む際に協働でできることはないかを考えます。町は、町民の方から事業をやってみたいと相談を受けた際に、何か町として協働できることはないか、考えることが重要です。



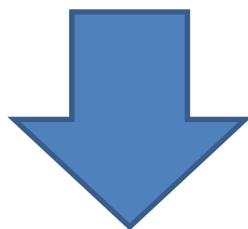
わかりづらいかもしれませんが、
要するに！！

共通の目的を達成するために、複数の組織や団体が協力して事業に取り組むこと！

職員目線
(行政目線)

地域課で相談を 受けると・・・

- どのような事業なのだろうか？
- 誰をメインターゲットとして、なんのために
行う事業なのだろうか？
- 町と協働するメリットはなんだろうか？ 町へ協
力して欲しいことは明確か？



**町民が主導している
ことが重要！**

- 町はどんな支援ができるのか（所管課は？）
- どのように進めるか（スケジュール調整）
- **協働事業提案書**の作成

協働事業提案書

1-1 事業を行う前の現状	瑞穂町バスケットボール連盟と瑞穂・横田交流協会にてイベントを発案するが、横田基地司令官シヨーン・W・ロバートソン大佐の異動まで時間が無い為、急遽4月14日(土)に開催することとなった。
1-2 これから町と取り組みたい事業の内容	施設及び必要用具の調整 告知・集客協力
1-3 見込まれる効果(短期的)	瑞穂・横田(日米)の親睦が図れる。青少年にスポーツの機会を与え、健全育成に寄与することができる。まちづくりや地域活性化に寄与することができる。
2-1 事業の日程等	H30.3.4 発案 H30.4.14 開催
2-2 事業を行う際に想定される参加者	スタッフ:瑞穂町バスケットボール連盟スタッフ10名 瑞穂・横田交流協会スタッフ5名 参加者(競技者):瑞穂・横田 計60名 観客:200名

協働事業提案書

3-1 事業発案の動機	瑞穂ならではの活動を行い、スポーツで瑞穂町を元気にしていきたい。瑞穂・横田(日米)の親睦を図りたい。子供たちにスポーツの機会を与え、健全育成に寄与したい。
3-2 団体の特性と事業の整合性	プロバスケットボールチームの選手や運営に携わっていた者がおり、同種のイベントの企画・運営には長けている。
3-3 地域への波及効果(長期的)	本イベントをきっかけ(毎年行っていきたい)として、瑞穂・横田(日米)の関係が強化される。スポーツによるまちづくり、地域活性化が行われるようになる。
3-4 事業実施後の団体の活動	毎年開催できるように努める。本イベントをきっかけとして、更なる瑞穂・横田の友好関係の構築を図る。スポーツによるまちづくり、地域活性化をより推進していく。
4-1 町への協働を希望する内容	施設及び必要用具の調整。 告知・集客協力 その他イベントに関する調整
4-2 協働を希望する担当部署名	地域課、企画課、秘書広報課、管財課、子育て応援課、社会教育課、総務課、指導課、社会福祉協議会

イベント開催に向けた具体的な準備

町の役割

チラシ提示

マスコミへの情報提供

町長、副町長、教育長
への案内状受理

駐車場の確保

机、椅子の配備

住民（小松委員） の役割

会場の確保

タイムスケジュール
管理（進行）

相手チームとの調整

etc・・・

今回のイベントを協働事業として やってみて思うこと

- ・町として、協力できること、できないことがあるが、何かやってみたいと思った時には相談に来てほしい（ただし、企画立案や町に何をしてほしいかを明確に）
- ・協働事業として行うことが、難しい場合は、ボランティア活動からやってみる。自分の得意なことからやってみる。
- ・協働事業に関するガイドラインを策定したので、興味がある方は、ぜひご覧ください。
(ホームページ)

結果

やって良かった！

- 労力は本当にかかったが、参加者の笑顔を見ることができて本当によかった！



協働を終えての感想

- あくまで住民が主体性を持って行動をしなくてはならない！
- 問題が起きてただ困ったというだけではなく、住民がどう考えているのか、どう解決したいのかが大切！

実際に行ってみての協働のポイント

- 住民の思う町の未来と行政のできることをマッチングすることが協働のポイント



協働とは

- 町の未来を住民と行政がともに描くことのできる最高のツールである

